

## 第6期 事業報告

### 事業記録

日付	内容	事業主体等	担当
4月8日	竜串自然再生推進計画調査・第1回調査担当者会議(高知市)	(株)西日本科学技術研究所	岩瀬
4月17日	沖の島オニヒトデ駆除	宿毛市	林
4月21～29日	タイ国Similan諸島シーファン津波被害修復作業指導(タイ国パンガー県)	Prince of Songkla大学サンゴ礁チーム・JICA	岩瀬
4月25日	CURRENT 20号発行	自主事業	中地
5月10～20日	平成17年度助成研究の募集	自主事業	岩瀬
5月16～17日	慰安旅行(西土佐村:四万十楽舎)		
5月19日	牟岐大島スポットチェック調査	クラブノアむぎ	林・目崎
5月22日	NPO夜須海の駅総会 「夜須の海はどんな海？」	NPO夜須海の駅	岩瀬
5月23～28日	石西礁湖スポットチェック調査・サンゴ採卵	日本ウミガメ協議会・ 当財団	林・目崎
5月24日	夜須町社会教育研修会 「サンゴ保全の取り組み～事例紹介～」	夜須町教育委員会	岩瀬
5月25日～ 6月10日	研究助成者選考	自主事業	理事・ 評議員
6月2日	竜串自然再生推進計画調査・第2回調査担当者会議(高知市)	(株)西日本科学技術研究所	岩瀬
6月4～6日	刺胞動物等談話会発起人会(和歌山県白浜町)	刺胞動物等談話会発起 人会	岩瀬・目崎
6月8～9日	竹ヶ島海中公園自然再生推進調査・第1回専門部会及び行政連絡会合同会議(8日:徳島市)・第1回協議会(9日:徳島県穴喰町)	徳島県・(株)ニタコンサルタント	岩瀬
6月10日	第1回すくも湾藻場造成勉強会(宿毛市)		岩瀬
6月11日	平成17年度第1回通常評議員会(研究所)		岩瀬
6月14日	平成17年度第1回通常理事会(高知市)		岩瀬
6月15日	研究助成者決定	自主事業	岩瀬
6月19日	足摺海洋館イベント「高知の海を泳ぐウミガメ」	足摺海洋館	田中
6月23日～ 8月12日	研究所地先サンゴ産卵状況調査	自主事業	林・目崎
7月8日	竜串自然再生推進計画調査・第1回技術検討会(高知市)	環境省・(株)西日本科学技術研究所	岩瀬・中地

7月15日	土佐遊亀会(四万十市)	土佐遊亀会	田中・岩瀬
7月19日	竜串自然再生推進計画調査・第3回竜串自然再生推進調整会議(土佐清水市)	環境省・(株)西日本科学技術研究所	岩瀬・中地
7月20日	竜串自然再生推進計画調査の一環として竜串湾にサンゴ種苗の試験放流:テレビ局各局取材		林
7月20日	第2回すくも湾藻場造成勉強会(「海の森づくり研究会」に移行)(宿毛市)		岩瀬・田中
7月25日	CURRENT 21号発行	自主事業	中地
8月3~5日	第4回黒潮生物研究所小学生サマースクール「君も小さな研究者」	自主事業	中地
8月13日	地元漁師と交流会(研究所)		
8月17~19日	第3回黒潮生物研究所中学生サマースクール「海辺の暮らし体験キャンプ」	自主事業	中地
8月26日	第3回高知県うみがめ保護推進連絡会議「ウミガメの生態と高知県の現状」	高知県	田中
8月30日	竹ヶ島海中公園自然再生推進調査・第2回専門部会(徳島市)	徳島県・(株)ニタコンサルタント	岩瀬
9月9~11日	自然再生フォーラムinししくい(=竹ヶ島海中公園自然再生協議会設立大会)(宍喰町)	徳島県・(株)ニタコンサルタント	中地
10月25日	CURRENT 22号発行	自主事業	中地
10月26日	黒生研ニュース第1号発信		岩瀬
11月8~10日	第1回刺胞動物等談話会(和歌山県白浜町)	刺胞動物等談話会発起人会	岩瀬・目崎
11月12日	講演会 地域活動とサンゴの未来(奈半利町)	天然資源活用委員会・奈半利町	岩瀬・目崎
11月13日	奈半利海域スポットチェック調査	天然資源活用委員会	岩瀬・目崎
11月18~20日	第16回日本ウミガメ会議(沖縄県竹富町)	日本ウミガメ協議会	岩瀬
11月25~27日	日本サンゴ礁学会第8回大会(沖縄県西原町)	日本サンゴ礁学会	林・目崎
11月29日	黒生研ニュース2005年第2号発信		岩瀬
12月8日	竹ヶ島海域スポットチェック調査	NPOあど未来	田中・目崎
12月9日	牟岐大島海域スポットチェック調査	クラブノアむぎ	田中・目崎
12月14~15日	竹ヶ島海中公園自然再生推進調査・第2回行政連絡会・第3回専門部会(14日:徳島市)第2回協議会(15日:宍喰町)	竹ヶ島海中公園自然再生協議会	岩瀬
12月20日	竜串自然再生推進計画調査・第4回竜串自然再生推進調整会議(土佐清水市)	環境省・(株)西日本科学技術研究所	岩瀬・中地
12月21日	第3回海の森づくり研究会(宿毛市)		田中
12月23日	餅つき(研究所)		全員

12月29日	黒生研ニュース2005年第3号発信		岩瀬
12月30日	Kuroshio Biosphere Vol.2 発行	自主事業	岩瀬
2006年 1月17日	足摺岬・大浜オニヒトデ駆除(土佐清水市)	自主事業	林・中地・田 中・目崎
1月25日	CURRENT 23号発行	自主事業	中地
1月26日	竜串自然再生推進計画調査・第2回技術検討会 (高知市)	環境省・(株)西日本科学 技術研究所	岩瀬・中地
1月29日	黒生研ニュース2006年第1号発信		岩瀬
2月1～8日	タイ津波修復セミナーと修復状況調査(タイ国ブ ーケット県及びパンガー県)	Prince of Songkla大学サ ンゴ礁チーム・JICA	岩瀬
2月14日	モニタリングサイト1000(サンゴ礁分野)ワーキング グループ第3回会合(東京都)	(財)自然環境研究セン ター	岩瀬
2月18日	足摺岬・大浜オニヒトデ駆除(土佐清水市)	自主事業	岩瀬・中地・ 田中
2月22～23日	竹ヶ島海中公園自然再生推進調査・第3回行政 連絡会・第4回専門部会(22日:徳島市)第3回協 議会(23日:宍喰町)	竹ヶ島海中公園自然再 生協議会	岩瀬
3月1日	黒生研ニュース2006年第2号発信		岩瀬
3月7日	平成17年度第2回通常理事会・平成17年度助成 研究成果報告会(大阪府堺市)	自主事業	岩瀬・林
3月17日	第4回海の森づくり研究会(宿毛市)		田中
3月19日	平成17年度第2回通常評議員会(研究所)		岩瀬
3月27日	黒生研ニュース2006年第3号発信		岩瀬
3月29日	第5回竜串自然再生推進調整会議	環境省・(株)西日本科学 技術研究所	岩瀬・中地

## 事業の内容

### 1 研究関係

#### (1) 造礁サンゴ類の増殖に関する研究

##### 研究所地先におけるサンゴ産卵状況

平成 15 年度より継続。夜間に潜水して研究所地先に生息するサンゴの産卵状況を調査した。今年度は 17 種の産卵を確認。2002 年から 2005 年までの調査で 4 科 8 属 21 種の産卵が確認され、これらの調査結果をまとめて、日本サンゴ礁学会第 8 回大会で「高知県大月町西泊における造礁サンゴの産卵について」と題してポスター発表を行った。

##### ミドリイシ種苗生産技術の確立

クシハダミドリイシ、エンタクミドリイシ、ニホンミドリイシについて採卵し、5 万粒の受精卵を収容して 400 枚の着生板に着生させた。

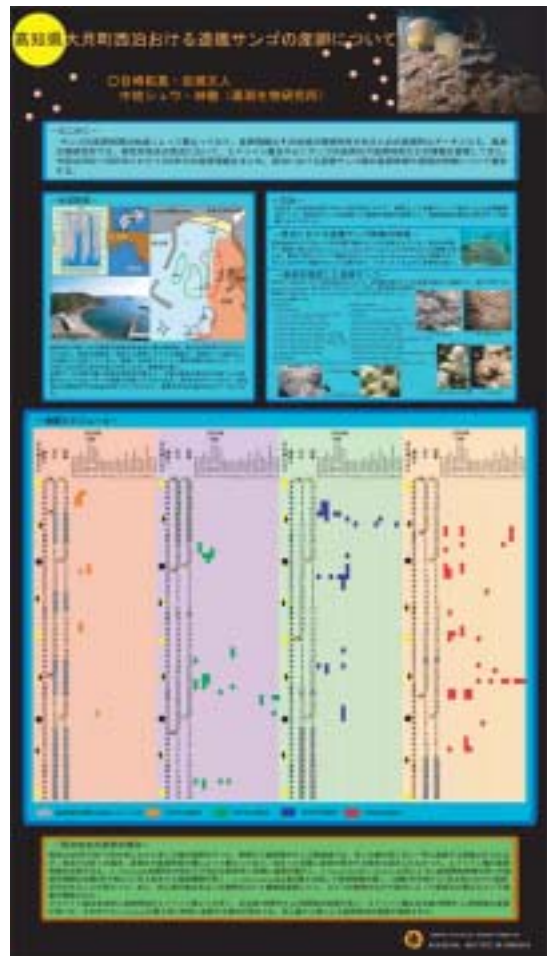
増殖実験はクシハダミドリイシとエンタクミドリイシを主に使い、2005 年 12 月 7 日現在、研究所前の海域で垂下式の筏を用いて 320 枚の着生板に着生した稚サンゴ約 6400 群体を中間育成中。筏を用いて海域で中間育成を行う手法については、CURRENT Vol.6, No.2 に林が「ミドリイシ属サンゴの種苗生産について - いかだを使った中間育成 - 」を掲載したほか、11 月に沖縄で開催された日本サンゴ礁学会第 8 回大会で「垂下式筏によるミドリイシ属サンゴの中間育成について」と題してポスター発表を行った。また、平成 16 年度沖縄で開催された 10th International Coral Reef Symposium におけるポスター発表の内容を大会紀要に寄稿し、受理された。

##### サンゴ種苗の放流試験

2002 年度に採集した卵から育てたクシハダミドリイシ種苗 2 群体は 2004 年度から研究所前に放流されており、現在も順調に成育中。

昨年度に採集した卵から水槽飼育した後、海域で中間育成したエンタクミドリイシ稚サンゴを土佐清水市竜串の爪白、大バエ、メクサレの 3 ヶ所と大月町西泊の 2 ヶ所、計 5 ヶ所に放流した。

放流数は、土佐清水竜串に 84 群体（爪白 29 群体、大バエ 29 群体、メクサレ 26 群体）、大月町



西泊に 62 群体。現在生育状況を観察中。

#### クシハダミドリイシ幼体の栄養に関する研究

昨年度に引き続き実験を行ったところ、粒状固形物や溶存有機物の多寡によって幼体の生残や成長に差は見られず、卵由来の栄養だけで骨格形成まで進み、幼群体は共生藻と溶存物質だけで成長する可能性が示唆された。

#### 受精卵の冷凍保存技術の研究

細胞培養液と耐凍剤による超急速および緩徐冷凍法を試みたが、生残しなかった。次年度、卵割前の受精卵を用いて実験する予定。

### ( 2 ) ウミガメ関係

#### 大岐の浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況の調査及び産卵環境の保全

大岐の浜における調査の結果、上陸回数は 31 回のうち産卵回数は 26 回だった。また竜串の桜浜で上陸 2 回のうち産卵 2 回、爪白海岸で上陸 1 回のうち産卵 1 回が確認された。

#### 大敷網に混獲されるウミガメの調査

今年度はアカウミガメ 2 頭、アオウミガメ 4 頭に標識を装着して放流した。また、2004 年に放流した個体のうち、2004 年 3 月に放流したアカウミガメ 1 個体が、2006 年 1 月 17 日に高知県室戸市高岡の定置網で再捕獲された。この個体は、室戸市での再捕獲時にはオスの成熟を示す尾部の伸長が認められたが、およそ 2 年前の放流時にはまだ尾部伸長の見られない亜成体であったことから、オスのアカウミガメの成熟過程における成長や回遊経路について明らかにするための貴重な事例となった。

#### 四国の海岸環境とウミガメの産卵との関係に関する研究

今年度は引き続き愛南町城辺から三崎町佐多岬までの海岸線を調査した結果、現在ウミガメが産卵している砂浜は存在しなかったが、過去に産卵したという情報がある浜が 6 ヶ所あることが分かった。しかし、いずれの浜においても、最近 10 年の間には産卵が確認されていない。

#### アオウミガメの消化管内容物に関する研究

今年度は 2 個体のアオウミガメのストランディング個体から消化管内容物を採集した。引き続き資料を収集する。

### ( 3 ) 動植物相関係

#### 大月町海域造礁サンゴ相調査

昨年度調査の結果を Kuroshio Biosphere Vol.2 に「高知県大月町海域から記録された造礁性サンゴ類」と題して掲載した。

#### 大月町海域非造礁サンゴ相調査

造礁サンゴと同様昨年度調査の結果を Kuroshio Biosphere Vol.2 に「Azooxanthellate Scleractinia (Hexacorallia, Anthozoa, Cnidaria) Collected from Otsuki, Kochi Prefecture, Japan」と題して掲載した。

#### 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入状況調査

東海大学海洋学部横地研究室と共同で宇和海から足摺海域に至る広い海域の造礁サンゴ類分布状況、及び幼生の加入状況の調査を継続している。調査結果は東海大学 4 年生の卒業論文としてまとめられた。来年度も継続調査を行う予定。

#### 海藻相調査

今年は高知県大月町西泊、赤泊、樫ノ浦、古満目、周防形、宿毛市桐島、大藤島、内外ノ浦、土佐清水市松尾港、竜串湾、徳島県竹ヶ島、牟岐宮ノ本などでサンプリングを行い、302 個体 74

種の押し葉標本を作製した。調査結果の一部は Kuroshio Biosphere Vol.2 に「高知県、竜串湾に生育する海草と海藻」と題して掲載した。

その他

研究所周辺海域で採集を行い、標本として整理・保存し、動植物相の基礎資料づくりを行っている。今年度はサンゴ類、海藻・海草類の他に、軟体動物 32 種の標本を加えた。

#### (4) その他

相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究

国立科学博物館相模灘調査実行委員会が主催して平成 13 年度から行っている標記研究に、八放サンゴ亜綱（ヤギ類）担当館外研究者として参加した。今年度は最終年度にあたり、国立科学博物館専報に、岩瀬文人・松本亜沙子の連名で「相模灘調査で採集されたヤギ類（予報）」というタイトルで報文を投稿した。現在校正中。

ウニを除去することにより藻場が復元するかの実験

実験開始から 3 年目に入った。昨年までの結果、古満目、周防形いずれの調査地においても、ウニを除去した実験区の方が対照区に比べて高い被度で海藻が生育するが、生えてきた海藻の種類を見ると、サンゴモ類やテングサ類などの紅藻類が主であり、ガラ藻場を構成する種であるホンダワラ類の生育は確認されなかった。今年度は 5 月に試験海域のウニを除去し、海藻の繁茂状況の調査を行った。実験は終了とし、結果は現在分析中。

タイ国アングマン海シミラン諸島におけるシーファン津波被害の修復援助

2004 年 12 月 26 日のスマトラ沖地震による津波によって被害を受けた、タイ国西岸、アングマン海に浮かぶシミラン諸島国立公園において、タイ国 Prince of Songkla 大学の Sakanan Plathong 講師が中心になって行われているシーファン（扇状のヤギの仲間）の修復事業について、JICA タイ事務所の要請により手法や修復理念等について岩瀬が助言と指導を行った。

1 回目の訪タイは平成 17 年 4 月 21 - 29 日。シミラン諸島で行われている修復手法について実地の指導と修復理念についての討議を行った。

2 回目の訪タイは平成 18 年 2 月 1 ~ 8 日。Phuket Marine Biological Center を訪問してサンゴ関係の研究者とサンゴの修復及び増殖に関する意見交換を行い、“Sea fan and Coral reef recovery. A preliminary result and the management plan for Similan and Surin Marine National Park.”というセミナーに出席してシーファン修復手法について講演した。セミナー修了後、シミラン諸島で修復状況の潜水調査を行った。

海の森づくり研究会への参加

大月町および宿毛市の沿岸海域で起きている磯焼けを改善するため、地元漁協や自治体の水産課、学識経験者などが集まり、様々な立場から意見を出し合って対策を検討する「海の森づくり研究会」が株式会社児玉組社長の児玉徳尚氏の呼びかけで始まり、当財団もメンバーとして参加している。平成 18 年 3 月 17 日には宿毛湾に注ぐ河川上流にあるダム周辺に地元小学生と広葉樹の植樹をする等の活動を行い、田中が講師として参加した。

## 2 研究助成事業

平成 17 年度から、新たに研究助成事業を開始した。以下に募集要項に記載した事項を簡略に転載する。

### 1. 趣旨

国公立大学の独立行政法人化、景気低迷の長期化による親世代の所得の減少や失業率の上昇など、昨今の学生を取り巻く研究環境には大変厳しいものがあります。このような学生や市井の研究者の研究に対して助成を行うことにより、次世代の研究者、地域と密着した研究者の育成を図ることを目的とします。

### 2. 助成の対象

黒潮生物研究財団設立の目的に添う研究であれば、研究の実施場所や研究分野は問いませんが、営利を目的とするものは対象としません。

### 3. 応募資格

大学卒論生、研究生、専攻科生、大学院生、その他の研究者

### 4. 助成対象となる費用

実験や調査に使用する器具費、材料費、調査に必要な旅費、施設や設備の使用料など、直接研究に必要な費用が助成対象になります。研究協力者や補助員に対する謝礼を含めることはできませんが、給与とみなされるものは助成の対象にはなりません。

なお、申請した研究について、研究室の研究費や他の助成金等をあわせて使用することは差し支えありませんが、研究全体の費用のたまかな内訳を呈示していただき、研究が確実に遂行される根拠を示していただきます。

### 5. 助成規模

1 件につき 10 ～ 20 万円以内。5～6 件程度。

### 6. 助成期間

原則として平成 17 年 4 月 1 日から平成 18 年 3 月 31 日まで

### 7. 応募方法

所定の申請書に必要事項を記入し、財団宛に郵送。

なお、応募を受け付けた時は、電子メールまたは葉書により受け付けた旨を連絡します。

### 8. 選考方法

当財団の理事及び評議員の審査により、専務理事が採否を決定します。

採否は 6 月中旬までに応募者に通知します。

### 9. 助成金の交付

採用された研究に対する助成金は、応募者が指定した振込口座に 6 月中に振り込まれます。

### 10. 助成を受けた者の義務

当財団所定の様式により、研究の概要について報告書を提出していただきます。提出していただいた報告書は、当財団のホームページ、機関誌「CURRENT」や「Kuroshio Biosphere」等に掲載して公表します。

助成を受けた研究の成果を学会等で発表し、あるいは論文等として公表する場合には、当財団の助成を受けたことを明記してください。出版された論文等は、1 部を財団宛にお送り下

さい。

財団の主催する講演会において、研究成果について講演を依頼することがあります。この場合、旅費等は当財団から別途支給します。

原則として、申請した研究計画に添って研究を行っていただきますが、やむを得ず変更のある時には、前もって財団の承認を受けて下さい。助成金の使途の変更についても同様です。

このような募集要項によって助成研究を募集したところ、11件の応募があった。理事及び評議員による投票の結果、得票数の上位5件を助成対象とした。助成対象となった研究は以下の5件。

岩本太志 東京大学 大学院農学生命科学研究科生圏システム学専攻修士2年

高知県室戸岬沿岸に來遊するアカウミガメの食性

執行絵美子 高知大学 理学部自然環境科学科生物科学コース4年

サンゴ食巻貝シロレイシダマシ類による集団形成の謎に迫る！

中尾絵津子 高知大学 農学部栽培漁業学科海洋生物育成学講座4年

サンゴの白化現象に対する細菌類の影響について

的場洋右 高知大学 大学院農学研究科栽培漁業学専攻修士1年

サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響

宮本麻衣 東海大学 海洋学部水産学科水産資源開発課程4年

四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入

平成18年3月7日にステラケミファ株式会社三宝工場(大阪府堺市)会議室において助成研究報告会を催し、財団理事、ステラケミファ(株)の研究部と開発部の社員を中心に30名ほどの前で助成者に研究成果について発表してもらった。なお、研究成果の概略は、財団ホームページ上で公開している。



### 3 受託調査・事業等

#### (1) 平成 17 年度竜串地区自然再生推進計画調査(海域調査)

発注者：環境省自然環境局 中国四国地方環境事務所

内 容：竜串湾のサンゴ群集を中心とする生態系再生方策を策定するための調査。陸域は(株)西日本科学技術研究所が、海域は当財団及び東京久栄(株)が受注した。

期 間：平成 17 年 5 月～平成 18 年 3 月

#### (2) 平成 17 年度竹ヶ島自然再生推進計画調査

発注者：徳島県から発注を受けたニタコンサルタント株式会社から調査の一部を受注

内 容：徳島県穴喰町竹ヶ島及び高知県東洋町甲浦に囲まれた海域においてサンゴ群集を中心とする生態系が変質しつつあるため、自然再生の手法により再生する方策を策定するための調査。海域調査の内、サンゴの分布調査、エダミドリイシの増殖にかかる調査等を請け負った。

期 間：平成 17 年 5 月～平成 18 年 3 月

#### (3) 平成 17 年度管理方針検討調査(足摺宇和海国立公園オニヒトデ等監視対策調査)

委託者：環境省自然環境局

内 容：足摺宇和海国立公園において近年発生が伝えられているオニヒトデ等サンゴ食害生物の現状調査及び今後の監視体制の方針策定。

期 間：平成 17 年 10 月～平成 18 年 1 月

#### (4) 平成 17 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域サンゴ礁モニタリング業務

発注者：財団法人 自然環境研究センター

内 容：環境省が実施しているモニタリングサイト 1000 事業のサンゴ礁モニタリングのうち、四国沿岸海域のモニタリング調査

期 間：平成 17 年 10 月～18 年 2 月

#### 4 啓蒙・広報活動

##### (1) 第四回黒潮生物研究所サマースクール - きみも小さな研究者 -

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

共 催：大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会

期 日：平成 17 年 8 月 3～5 日（2泊3日）

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県幡多地域、愛媛県南予地域の小学4～6年生 35名

主なプログラム：竹で作ろう（そうめん流しと竹食器、おもちゃづくり）、磯の生き物観察、  
ちよんがりクイズラリー、飯盒炊さん、テントで宿泊、海水浴、肝だめし、キャン  
プファイアー、感想文 等

##### (2) 第三回黒潮生物研究所中学生サマースクール「海辺の暮らし体験キャンプ '05」

主 催：財団法人黒潮生物研究財団

共 催：大月町・大月町教育委員会

後 援：高知県・高知県教育委員会

期 日：平成 17 年 8 月 17～19 日

場 所：大月町西泊 黒潮生物研究所

参加者：高知県幡多地域の中学生 5名

主なプログラム：大敷網体験や干物作り、素潜りでの貝獲り、自分図鑑作り、自作の竹竿で  
の魚釣り、飯盒炊さん、テントで宿泊 等

##### (3) 機関誌「CURRENT」出版

4月、7月、10月、1月の4回、予定通り刊行した。平成18年1月現在、170ヶ所に発送している。

##### (4) 学術誌「Kuroshio Biosphere : Bulletin of the Biological Institute on Kuroshio」出版

12月25日に第2号を出版した。国内107ヶ所、国外92ヶ所の教育機関・研究機関等に発送した。



##### (5) 教育機関との連携等

土佐清水市立 下ノ加江中学校 全校生徒

期 日：5月10日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：授業「アカウミガメの生態および保護について」

授業「ウミガメの食べ物」

大月町立 檜西小学校 総合的な学習の時間（全校生徒）

期 日：7月10日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：イソキングカード作り

土佐清水市立 下ノ加江中学校 全校生徒

期 日：9月10日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：子ガメの放流会

宿毛市立 栄喜小学校 教職員

期 日：10月10日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：総合的な学習の時間の授業のすすめ方について

宿毛市立 栄喜小学校 2, 3, 4年生

期 日：10月17日

内 容：講師派遣（中地）

テーマ：栄喜漁港探検

大月町立 中央小学校 4年生

期 日：10月24日

内 容：講師派遣（田中）

テーマ：授業「みんなのそばにすんでいるウミガメ」

大豊町立 大杉中学校 2, 3年生

期 日：2月28日

場 所：夜須町大手の浜およびマリーナ内艇庫2階

内 容：講師派遣（岩瀬）

テーマ：文部科学省「豊かな体験活動推進事業：地域間交流プログラム“海洋体験学習”」  
に指定されているプログラムにおいて、海の自然と山の自然のつながりについて体験学  
習と講義

(6) その他の機関への協力

平成17年度NPO夜須海の駅総会

期 日：5月22日

場 所：芸西村 土佐ロイヤルホテル

内 容：基調講演（岩瀬）

テーマ：夜須の海はどんな海？

夜須町社会教育研修会

期 日：5月24日

場 所：夜須町 中央公民館

内 容：講演（岩瀬）

テーマ：サンゴ保全の取り組み～事例紹介～

高知県立足摺海洋館活用事業「高知の海を泳ぐウミガメ」

期 日：6月19日

場 所：土佐清水市 足摺海洋館

内 容：一般対象イベントに講師派遣（田中）

テーマ：アオウミガメ亜成体の標識放流や講義

竜串におけるサンゴ種苗の移植放流に関するマスコミへの対応

期 日：7月20日

場 所：土佐清水市 竜串

内 容：自然再生事業の一環で行われたサンゴ種苗の移植放流について、高知放送、NHK高知放送局、さんさんテレビの取材に対応（林）

高知県ウミガメ保護条例のパンフレット

高知県環境保全課が企画した、ウミガメ保護条例のパンフレット「ウミガメを守ろう」の原稿を田中が作成した。パンフレットは3000部作成され、一般に配布された。

第3回高知県うみがめ保護推進連絡会議

期 日：8月26日

場 所：高知県庁

内 容：県関係部局および関係市町村の担当者による会議で講演（田中）

テーマ：ウミガメの生態と高知県の現状

自然再生フォーラム in ししくい

期 日：9月9～11日

場 所：徳島県穴喰町

内 容：室戸阿南国定公園竹ヶ島海中公園の自然再生事業の法定協議会立ち上げにあわせて行われたイベント。後援団体として参加。10日のエクスカージョンで「海辺の環境学習体験」のプログラムを中地が担当。

奈半利町講演会「地域活動とサンゴの未来」

期 日：11月12日

場 所：奈半利町保健センター

内 容：地域おこしのNPOと奈半利町が開催した講演会で講演

テーマ：奈半利沖サンゴモニタリング調査報告（目崎）

世界のサンゴの現状（岩瀬）

## （7）委員等就任

その他、平成17年度には財団、研究所あるいは職員は以下の委員等に就任した。

- ・足摺宇和海国立公園竜串自然再生推進計画調査にかかる調整会議 技術検討委員（岩瀬）
- ・竹ヶ島海中公園自然再生協議会 専門委員（岩瀬）
- ・モニタリングサイト1000事業サンゴ礁分野ワーキンググループ メンバー（岩瀬）
- ・高知県環境活動・環境学習サポートセンター（仮称）設立協議会 メンバー（岩瀬）
- ・農林水産省環境相談員（岩瀬：登録番号：39013）
- ・高知県文化環境アドバイザー 分野：自然・環境（岩瀬）
- ・NPO法人黒潮実感センター 理事（岩瀬）
- ・NPO法人日本ウミガメ協議会 監事（岩瀬）
- ・刺胞動物等談話会（NCB）設立発起人（岩瀬・目崎）

- ・ 榎西小学校 開かれた学校づくり推進委員会 委員（岩瀬）
- ・ 西泊地区 役員（岩瀬）

## （ 8 ） その他

### 刺胞動物等談話会（NCB）の設立

和歌山県立自然博物館の今原副館長の呼びかけで、刺胞動物及び有櫛動物の自然史系の研究者による情報交換の場として、刺胞動物等談話会（Nippon Coelenterate/Cnidarian/ Ctenophoran Biologists）が設立された。当財団からは岩瀬と目崎が設立発起人として当初から参加し、11月8～10日に和歌山県白浜町にある京都大学フィールド科学教育センター瀬戸臨海実験所で第1回の会合（設立総会）が行われた。談話会は年1回開催する予定で、平成18年度は千葉県、平成19年度は高知県で開催予定。

### HP上での情報公開

平成14年度より、財団ホームページ（<http://www.kuroshio.or.jp>）上で事業及び決算内容と事業予定及び収支予算を公開している。

また、今年度からブログを立ち上げてホームページからリンクして読めるようにし、新着の話題をタイムリーに提供できるようにした。

### 参加学会等

財団、研究所あるいは職員は以下の団体に参加している。

- ・ 日本サンゴ礁学会 （黒潮生物研究所）
- ・ 日本動物分類学会 （岩瀬）
- ・ 日本生物地理学会 （岩瀬）
- ・ 日本藻類学会 （田中）
- ・ 刺胞動物等談話会（NCB） （岩瀬・目崎）
- ・ 南紀生物同好会 （岩瀬）
- ・ 沖縄生物学会 （岩瀬）
- ・ 八重山サンゴ礁保全協議会 （岩瀬）
- ・ 日本ウミガメ協議会 （岩瀬・田中）
- ・ 紀伊半島ウミガメ情報交換会 （黒潮生物研究所）
- ・ 土佐遊亀会 （黒潮生物研究所）
- ・ 環境の杜こうち （黒潮生物研究所）
- ・ 黒潮実感センター友の会 （黒潮生物研究所）
- ・ 竹ヶ島自然再生協議会 （黒潮生物研究所）
- ・ 足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会（岩瀬・林・中地・田中）

## 5 業績

### (1) 著作

黒潮生物研究財団紀要「Kuroshio Biosphere」Vol.2, December 2005

- ・Tachikawa, H. Azooxanthellate Scleractinia (Hexacorallia, Anthozoa, Cnidaria) Collected from Otsuki, Kochi Prefecture, Japan. p. 1-27, 13 pls.
- ・野村恵一・目崎拓真. 高知県大月町海域から記録された造礁性サンゴ類. p. 29-41, 2 pls.
- ・大野正夫・田中幸記・平岡雅規・原口展子・石堂幹夫・今西秀明. 高知県、竜串湾に生育する海草と海藻. p. 43-51, 6 pls.

黒潮生物研究財団機関誌「CURRENT」

Vol. 6, No. 1 第20号 平成17年4月25日発行

- ・中地シュウ 表紙：ムラサキクルマナマコ
- ・三宅雄士 竜串湾の自然再生 はじめに
- ・目崎拓真 サンゴと私
- ・岩瀬文人 日本本土海域のオニヒトデ発生状況
- ・中地シュウ 磯を使った楽しい体験プログラム<イソリンピック>について
- ・S.N. 裏表紙：西泊沖で獲れたタイワンダイ

Vol. 6, No. 2 第21号 平成17年7月25日発行

- ・中地シュウ 表紙：マンジュウイシ
- ・林 徹 ミドリイシ属サンゴの種苗生産について - いかだを使った中間育成 -
- ・目崎拓真 石西礁湖のスポットチェックの結果について
- ・岩瀬文人 タイのシーファン復旧事業に参加して
- ・S.N. 裏表紙：カミキリモドキの大発生

Vol. 6, No. 3 第22号 平成17年10月25日発行

- ・中地シュウ 表紙：カプトガニ
- ・田畑慎之介 鹿児島県の佐田岬・錦江湾桜島におけるサンゴの現況とその取り組みについて
- ・目崎拓真 沖の島の造礁サンゴ群集
- ・S.N. 裏表紙：田んぼの植物について

Vol. 6, No. 4 第23号 平成18年1月25日発行

- ・中地シュウ 表紙：タマサンゴ
- ・目崎拓真 須ノ川の造礁サンゴ群集 ~ 極北限域のサンゴ群集の可能性 ~
- ・中地シュウ 足摺半島西岸大浜でのオニヒトデの大発生
- ・S.N. 裏表紙：安田町唐ノ浜の化石

その他

- ・岩瀬文人・松本亜沙子. (印刷中) 相模灘調査で採集されたヤギ類(予報). 国立科博専報 (Preliminary list on gorgonian octocorals collected by the natural history research of the Sagami Bay. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo. in Japanese)
- ・HAYASHI, T. and IWASE, F. (in printing) Artificial breeding method of *Acropora hyacinthus* (Scleractinia, Cnidaria). Proceedings of the 5th. International Coral Reef Symposium in Okinawa.

- ・ Matsumoto, A. K., F. Iwase, Y. Imahara, H. Namikawa. (in review). 'Bathymetric distribution and biodiversity of deep-water octocorals (Coelenterata: Octocorallia) in Sagami Bay and adjacent waters of Japan.' Bulletin of Marine Science.

## ( 2 ) 講演等

### 学会等

- ・ 目崎拓真・岩瀬文人・中地シュウ・林徹 . 2005.11.25-27. 高知県大月町西泊におけるサンゴの産卵について . 日本サンゴ礁学会第 8 回大会 ( 沖縄 ) . ( ポスター )
- ・ 林徹・岩瀬文人 . 2005.11.25-27. 垂下式筏によるミドリイシ属サンゴの中間育成について . 日本サンゴ礁学会第 8 回大会 ( 沖縄 ) . ( ポスター )
- ・ Matsumoto A.K., Iwase F., Imahara Y., and Namikawa H. 2005.11.28-12.2. Bathymetric distribution of the deep- water octocorals (Cnidaria, Anthozoa) of Sagami-Bay, Tokyo, Japan. 3rd International Symposium on Deep-Sea corals, Miami, USA. (ポスター)
- ・ 岩瀬文人・亀崎直樹・柏原正尚・御崎洋・宮城康一 . 2005.11.18-20. 1990 年に実施した八重山諸島砂浜海岸一斉調査 . 第 16 回日本ウミガメ会議(黒島会議) . ( 口演 )

### その他

- ・ Iwase F. 2006.02.02. The Sea Fan Transplantation Method and an Artificial Breeding Method of Corals. National Seminar on Coral Reef and Sea Fan Recovery after the Tsunami, Andaman Sea, Thailand. (Phuket Merlin Hotel, Phuket, Thailand).(タイ・アンダマン海における津波後サンゴ礁及びシーファンの修復国内セミナー : 口演)
- ・ Plathong S., F. Iwase, P. Suraswadi, W. Hongwiengchan, J. Kowintawong, For Sea Foundation. 2006.02.02. Sea Fan Recovery after the Tsunami 2004 at Mu Ko Similan National Park, Andaman Sea, South Thailand. National Seminar on Coral Reef and Sea Fan Recovery after the Tsunami, Andaman Sea, Thailand. (Phuket Merlin Hotel, Phuket, Thailand).(同上セミナー : Plathong による口演)

## ( 3 ) 調査報告書等

- ・ 平成 17 年度管理方針検討調査 ( 足摺宇和海国立公園オニヒトデ等監視対策調査 ) 委託業務報告書 . 2006.01. 財団法人黒潮生物研究財団受託 ( 環境省自然環境局委託 )
- ・ 平成 17 年度モニタリングサイト 1000 事業における四国南西部沿岸海域サンゴ礁モニタリング業務報告書 , 2006.02 , 財団法人黒潮生物研究財団受注 ( 財団法人自然環境研究センター発注 )
- ・ 平成 17 年度竹ヶ島海中公園地区自然再生推進計画調査事業委託業務(室戸阿南海岸国定公園徳島県海部郡穴喰町竹ヶ島及び金目周辺)成果報告書 ( part ) . 2006.03, 財団法人黒潮生物研究財団受注 ( 徳島県県民環境部環境局環境企画課自然共生室・ニタコンサルタント株式会社発注 )
- ・ 平成 17 年度竜串地区自然再生推進計画調査報告書 , 2006.03, 財団法人黒潮生物研究財団受注 ( 環境省中国四国地方環境事務所発注 )

#### (4) 研究所利用者の業績

##### 助成研究

- ・宮本麻衣 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入．東海大学海洋学部
- ・執行絵美子 サンゴ食巻貝シロレイシダマシ類による集団形成の謎に迫る！高知大学理学部
- ・中尾絵津子 サンゴの白化現象に關与する細菌類の影響．高知大学農学部
- ・的場洋右 サンゴが周辺海域の水質環境に与える影響．高知大学大学院農学研究科
- ・岩本太志 高知県室戸岬沿岸に來遊するアカウミガメの食性．東京大学大学院農学生命科学研究科

##### 研究所利用修士論文

- ・Keshavmurthy Shashank Vishwanath . 2005.03. Studies on the Effect of Environmental and Biological Parameters on Coral Physiology and Ecology. 高知大学大学院農学研究科

##### 研究所利用卒業論文

- ・中尾絵津子 . サンゴの白化現象に關与する細菌類の分布と共生藻へのその影響 . 高知大学農学部
- ・椎野明菜・時岡さつき・宮本麻衣 . 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 - 2995 年 . 東海大学海洋学部

##### 学会等

- ・別所学・横地洋之・岩瀬文人 . 2005.11.25-27. 四国西南海域における造礁サンゴの分布と幼生加入 . 日本サンゴ礁学会第 8 回大会 ( 琉球大学 ) .
- ・深見公雄・的場洋右・Keshavmurthy Shashank・岩瀬文人 . 2005.11.25-27. サンゴが生産・分泌する有機物の微生物群集に対する増殖基質としての役割 . 日本サンゴ礁学会第 8 回大会 ( 琉球大学 ) . ( 助成研究 )
- ・岩本太志・亀崎直樹・松沢慶将・石原孝・日野明德 . 2005.11. 室戸岬沿岸に來遊するアカウミガメ (*Caretta caretta*) の摂餌特性 . 日本爬虫両棲類学会大 4 4 回大会 ( 東北大学 ) . ( 助成研究 )
- ・岩本太志・亀崎直樹・石原孝・若月元樹・大鹿達也・宮形佳孝・松沢慶将・仲村貴生・山崎千亜希・山下傑・山下昌司・日野明德 . 2005.11.18-20. 室戸岬沿岸に來遊するアカウミガメ (*Caretta caretta*) の出現傾向 . 第 16 回日本ウミガメ会議 ( 黒島会議 ) ( 沖縄県竹富町 ) . ( 助成研究 )



## 6 研究所利用者

下記のとおり研究所の利用者があった。

機関研究者	2 名	延べ	6 日人
大学教員	5 名	延べ	17 日人
大学院生	14 名	延べ	178 日人
大学生	7 名	延べ	665 日人
専門学校生	1 名	延べ	19 日人
合計	29 名	延べ	885 日人

東海大学4年生4名が長期滞在して卒業研究を、高知大学大学院生2名および大学4年生3名が毎月滞在中に博士・修士・卒業研究を行った。専門学校生はインターンシップによる実習、他は短期滞在中による調査や採集、データの収集であった。

利用者の所属の内訳は、

独立行政法人（大学以外）	2 名
東北大学	2 名
東京工業大学	1 名
東海大学	5 名
京都大学	3 名
岡山大学	2 名
広島大学	4 名
高知大学	9 名
岡山理科大学専門学校	1 名
合計	29 名

となっており、北は東北大学、南は高知大学までの7大学と大学以外の独立行政法人2法人、専門学校1校に所属する方々によって利用された。

## 7 寄 附

当財団では以下の要領で一般に寄附金を募っている。

募集期間：随時

対 象：当財団の活動にご賛同いただける個人・団体・法人

金 額：金額は自由です。

免税措置：当財団は特定公益増進法人の認定を受けておりますので、ご寄附を行われた場合には、所得控除や損金算入など税法上の優遇措置が受けられます。

特 典：1,000円以上ご寄附をいただいた方には、ご寄附をいただいた年度に発行する当法人機関誌「CURRENT」（季刊年4回発行）をお送りいたしております。また、10万円以上ご寄附をいただいた方には、学術誌「Kuroshio Biosphere」（年1回発行）もお送りいたしております。

平成17年度には、個人6名、法人4団体からご寄附をいただき、寄附金総額は21,475,000円だった。

ご寄附いただいた企業

ステラケミファ株式会社  
有限会社ブルーハーバー  
株式会社東京久栄  
有限会社エムズワン

ご寄付いただいた個人

深田理事長、大井田さま、安達さま、安田さま、山口さま、園山さま

謹んで御礼申し上げます。

なお、ここでの寄附金総額は個人・団体からいただいた実質の総額であり、決算書類における寄附金収入はこの額に特別会計からの寄附金を加えた額になる。これは特別会計の黒字分を一般会計に寄附する、一般会計繰越欠損金に対するみなし寄附金のことである。